

「令和元年度東京都硫黄島戦没者追悼式」知事式辞（副知事代読）

本日ここに、御遺族、御来賓の皆様をお迎えして、令和元年度東京都硫黄島（いおうとう）戦没者追悼式を執り行うに当たり、先の大戦において、硫黄島での戦闘により亡くなられた全ての御霊（みたま）に対し、東京都民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

今を去る七十五年前、この小さな島は、島の形を変えたと伝えられるほどの激しい砲火に見舞われました。この地特有の硫黄の噴気と焼けるような地熱に苛まれながら、二万人を超える同胞は最後まで奮戦し、尊い命を落とされました。

今、摺鉢山（すりばちやま）を望む鎮魂の碑に向かい、ここに眠る御霊（みたま）の前に立ちますと、故郷の家族に想いを馳せながら亡くなられた皆様の、苦難と無念が胸に迫り、改めて戦争の残酷さ、悲惨さに痛惜の念、極まりないものがございます。

昭和から平成、令和へと時は移り、戦後生まれが社会の大半を占めるようになりましたが、私たちが今日享受する平和と繁栄は、戦没者の方々の尊い礎（いしずえ）の上に築かれていることを、決して忘れてはなりません。この島の悲しい歴史を次の世代へと確実に語り継ぎ、平和な社会の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

結びに、戦没された方々の御冥福と、御参列の皆様のお健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

令和二年一月十六日

東京都知事 小池 百合子